

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は改善している。

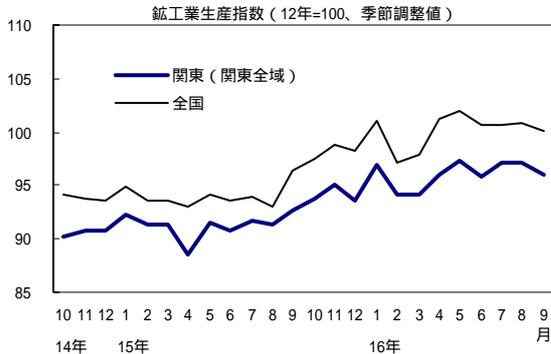
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 8 月)	今回 (平成 16 年 11 月)	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置は国内外向けともに堅調に推移しており、半導体製造装置はやや一服感がみられるものの高水準で、5 四半期連続の増加となった。化学は、中国向けを中心とする輸出と国内需要が活発であることから堅調な生産が続いており、増加している。輸送機械は、自動車は引き続き北米や欧州向けの輸出が好調で、自動車部品も堅調であることから、全体としては高水準で推移しているものの、四半期でみると減少となった。情報通信機械は、液晶テレビが堅調な一方で、携帯電話が弱含みで推移し、全体としてはおおむね横ばいとなっている。電気機械は、8月にセパレート型エアコンが大きく増加したが、半導体・IC測定器に一服感がみられ、全体としては減少している。



(備考) 平成 16 年 9 月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	13.8	3.2	5.1	3.1	2.1
化学	13.7	0.2	2.3	1.2	1.0
輸送機械	11.3	4.5	2.1	3.3	10.8
情報通信機械	8.6	9.6	0.3	1.2	27.1
電気機械	7.9	5.8	2.4	5.0	4.2
鉱工業	100.0	1.4	0.4	0.9	4.7

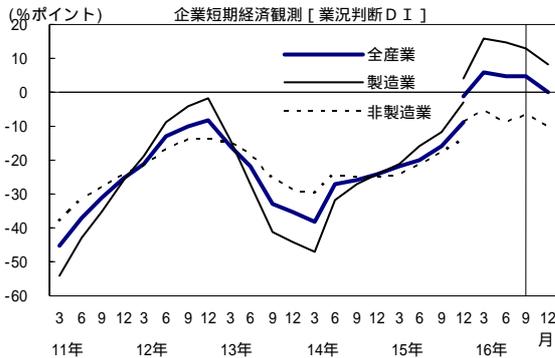
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7~9月期は速報値。

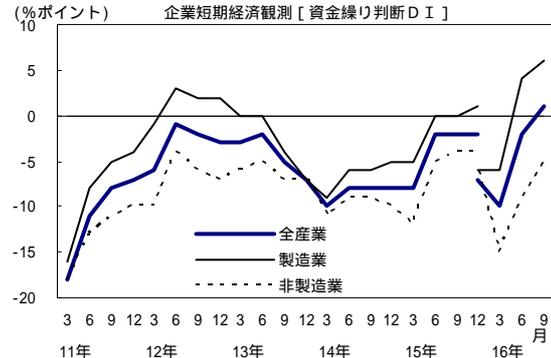
3. 7~9月期の化学の生産、出荷については、7月、8月
確報値の平均より算出。在庫については、8月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」超に転じている。

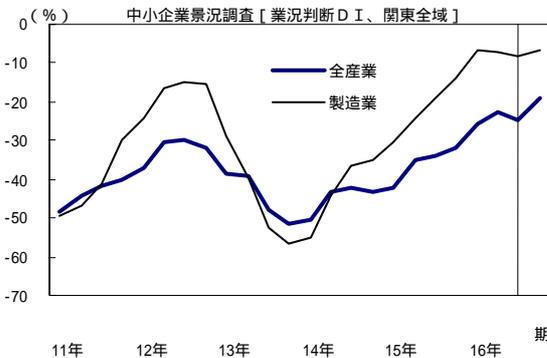
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年12月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。
旧基準は関東全域、新基準は日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「全般に仕事量は出てきている。加工関係は一時の忙しさに比べると落ち着いている。大手企業は利益を出しているようであるが、下請企業は依然として低コストに苦しんでいる (電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 16年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

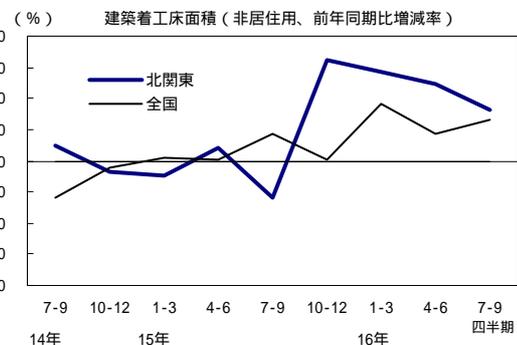
企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位: %)

	15年度実績	16年度計画
全産業	4.9	27.5 (1.1)
製造業	9.0	37.5 (2.6)
非製造業	1.7	9.6 (2.1)

(備考) () は前回 (6月) 調査比修正率。

調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

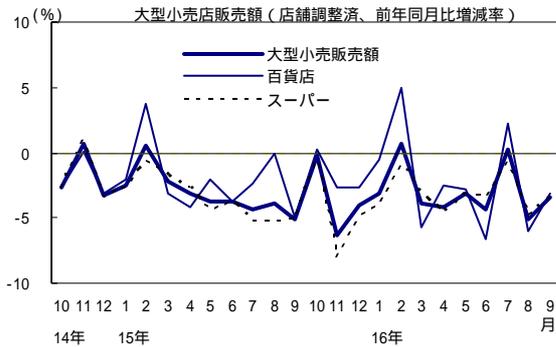
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、猛暑やクリアランスセールの効果から、婦人服を中心とする衣料品や身の回り品が前年を上回ったことから、全体でも5か月ぶりに前年を上回った。8月は、猛暑により秋物衣料が低調だったことから、前年を下回った。9月は、身の回り品に動きがみられたものの、残暑や天候不順の影響から、引き続き衣料品が振るわず、全体としては2か月連続で前年を下回った。

スーパーは、7月は主力の飲食料品、衣料品に持ち直しの動きがみられたものの、8月以降は衣料品や身の回り品が低調に推移し、全体では前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連DI(現状判断)]

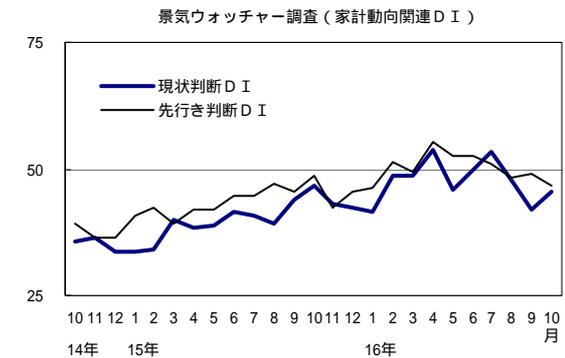
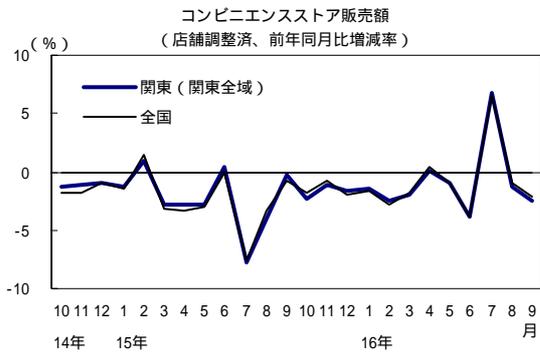
「三連休の初日に台風が通過するなど大きなマイナス要素があったものの、何とか前年並みの入場者を確保できそうである(遊園地)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	15年10-12月	16年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.7	1.9	3.9	2.7
百貨店	1.8	1.0	4.0	1.9
スーパー	4.5	2.8	3.8	3.0
コンビニ	1.7	1.9	1.6	1.0
景気ウォッチャー	44.2	46.3	49.9	47.7

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。16年7-9月期は速報値。コンビニは関東全域。

2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断DIの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると前年度を下回っている。

